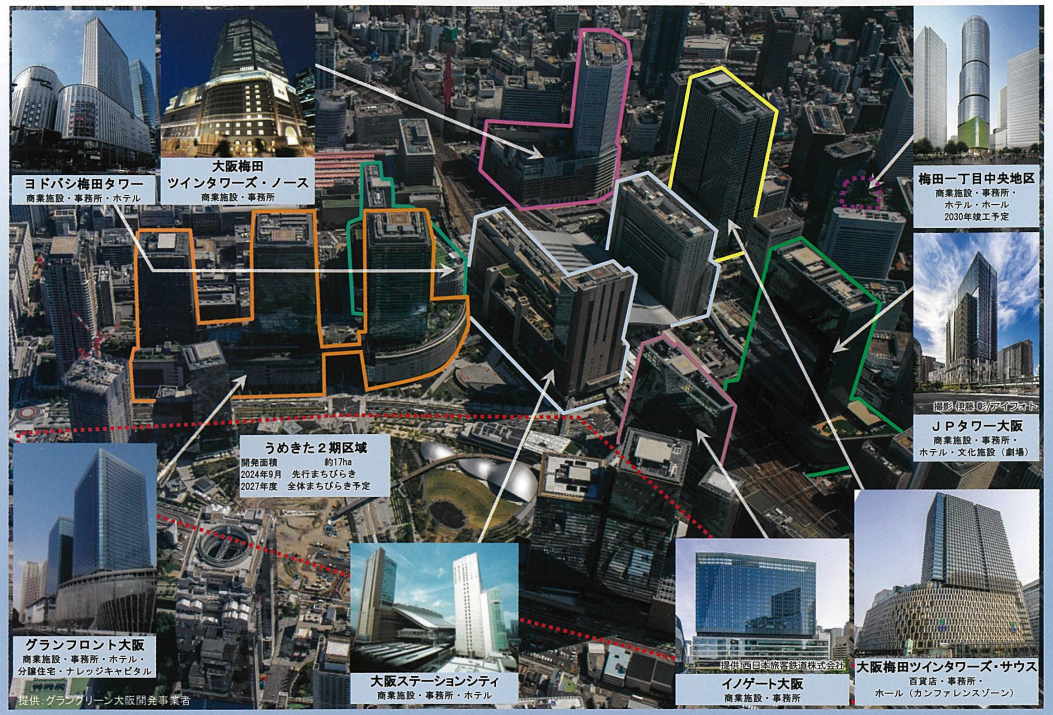
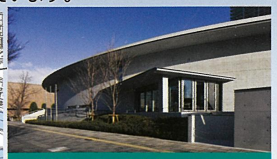
大阪駅周辺地域

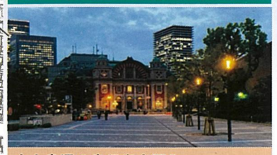
大阪駅周辺地域は、1日に約250万人が行き交う西日本最大のターミナルを有しており、関西の主要都市とのアクセス性に優れています。これまで企業の集積や都市基盤の整備が高度に進展しており、今後も様々な民間開発が予定されています。



中之島地域

堂島川と土佐堀川に挟まれる中之島地域は、水都大阪のシンボルアイランドとなっており、古くから経済・文化・行政の中心であり、現在でもビジネスの中枢機能などが集積し、芸術・文化の発信拠点としての役割も担っています。こうした地区の特性を活かし、これまでのビジネス・文化・MICE機能の集積に加え、大阪中之島美術館や、未来医療国際拠点の整備などにより、国際的なビジネス・文化・学術・交流拠点の形成を進めています。


こども本の森　中之島　2020年7月開館



中之島クロス（未来医療国際拠点）
2024年６月グランドオープン
病院・診療所・研究施設・事務所
最先端の未来医療の産業化を推進し、難治性疾患に苦しむ国内外の患者への未来医療の提供をめざす国際拠点を形成

大阪中之島美術館　2022年2月開館
佐伯祐三や吉原治良といった大阪出身の作家たち、世界の名画、デザイン作品など、国内外第一級の近現代美術コレクションを形成した、新たな芸術拠点となる美術館

中之島通の歩行者空間化
公共施設、文化施設、歴史的建造物が集積するエリアにおいて、回遊性向上とともに、沿道施設と一体的な空間の創出を図るため、人中心の空間として整備
（2021年4月　中之島通（難波橋から中央公会堂前）工事完了）
（2023年12月　中央公会堂前広場周辺工事完了）

大阪駅周辺地域（うめきた2期区域）

うめきた２期区域のまちづくりは、大阪・関西の発展を牽引するだけでなく、我が国の国際競争力の強化に資する拠点の形成をめざし、都市基盤整備を推進するとともに、「みどり」と一体となって世界をリードする「イノベーション」を生み出す中核機能の実現に向けた取組を進めています。

【民間開発】

○北街区
中核機能と宿泊機能を配置し、先行開発区域と連携する新産業創出と産学官民の交流ゾーン
施設：ホテル、イノベーション施設、商業施設、分譲住宅

○南街区
国際集客・交流に資する業務・商業・宿泊・MICE施設を配置し、世界からのビジネス・観光を促す高度複合都市機能集積ゾーン
施設：ホテル、オフィス、商業施設、都市型スパ、MICE施設、分譲住宅

○公園施設
都市公園内に設置許可施設として賑わい創出機能、イノベーション機能、飲食機能を有する建築物等を整備

【都市基盤整備】

○JR東海道線支線地下化及び 新駅設置事業
JR東海道線支線を移設・地下化し新駅を設置
※新駅は大阪駅（うめきたエリア）地下ホームとして2023年３月に開業

○土地区画整理事業
大阪駅前にふさわしい土地利用を支える道路や駅前広場を整備

○防災公園街区整備事業
区域の中心部に約4.5haの都市公園を整備

スケジュール

2024年9月	先行まちびらき
2027年度	全体まちびらき

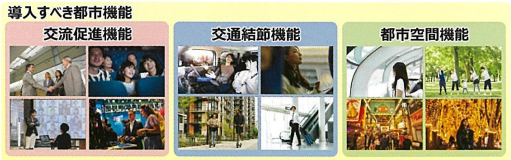
新大阪駅周辺地域

国土軸と大阪都市軸を繋ぐ新大阪駅周辺地域（新大阪・十三・淡路）は、リニア中央新幹線、北陸新幹線、淀川左岸線など高速交通ネットワークがさらに充実していきます。この地域ならではの全国・世界につながる交通基盤を活かし、駅とまちが一体となった「世界有数の広域交通ターミナルのまちづくり」に向けて、新大阪駅エリアの都市再生緊急整備地域の指定（2022年10月）をきっかけに、2040年頃を一つの目標にした取組をはじめています。

【民間都市開発プロジェクト】
○大規模な敷地の民間都市開発など
・質の高い機能の導入
・魅力ある低層部の創出
・まちの景観の向上
・交通、環境、防災性の向上など

【新幹線新駅関連プロジェクト】
○広域交通結節施設
○駅とまちをつなぐ歩行者動線
○大規模交流施設
○新大阪連絡線 新駅ビル開発
※新幹線新駅の位置を踏まえて検討を具体化

導入すべき都市機能



新大阪駅エリア都市機能の向上を図るゾーン
（都市再生緊急整備地域（114ha））